



NICHIBAN

# シールテープ せこたん™ 取扱説明書

低圧注入工法用「シール材」

## 自動式低圧注入工法



シールテープ  
CS-5010W



シールテープ 補強用  
CS-5020

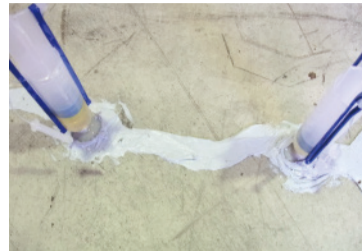


専用プライマー  
CSP-5000

## ニチバン株式会社

# シールテープ せこたん™ CS-5010W 補強用 CS-5020 とは

シールテープせこたん™CS-5010W(以下シールテープ)は、コンクリートひび割れ補修工法の一つ、低圧注入工法に使用するシール材(目止め材)です。また、シールテープせこたん™補強用CS-5020(以下補強テープ)は、柔軟性があり、シールテープの下貼りとして併用することで、シールテープ単独では対応できない粗面の目止めを可能にする専用の補強テープです。



従前工法  
シール材目止め+自動式低圧注入



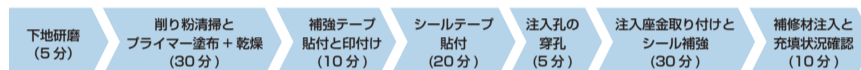
本工法  
シールテープ目止め+自動式低圧注入

## 特長

- シールテープは硬く、躯体への接着力が高い。
- 柔軟な補強テープは、曲部にも追従して貼付できる。
- 透明なテープ背面から補修材の注入状況を確認できる。
- 目止めの養生時間が短く、工期を短縮できる。
- 容易にはく離・撤去でき、仕上がり面がきれい。

## 施工時間の目安

### ■ 施工1日目



### ■ 施工2日目



【条件】直線ひび割れ3mの施工(施工時期:春・秋)の場合  
 ※施工場所、気温による養生時間の変化等により、施工時間は変動します。  
 ※躯体の状態により、専用プライマーを使わない場合は、施工時間は短くなります。

## ご使用いただく前に

### 保管上の注意

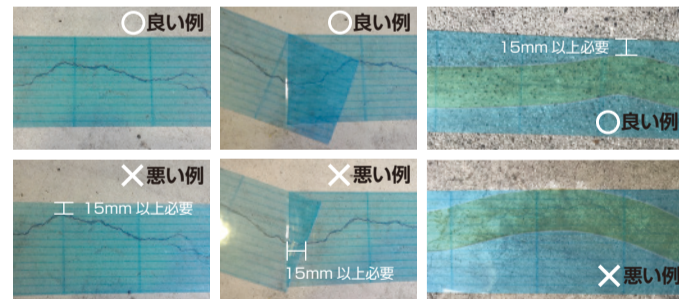
- 子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 高温多湿を避け、直接日光の当たらない場所に保管してください。

### 使用上の注意

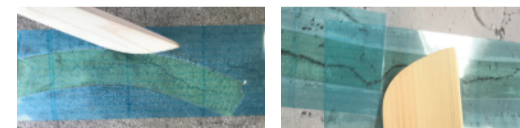
- 本来の用途以外には使用しないでください。
- エポキシ樹脂系補修材を注入してください。
- 5℃以下の低温条件や 40℃以上の高温条件でのご使用はお控えください。
- 下地が濡れている場合はよく乾燥させてください。
- 下地処理を実施してください。
- **スクレーパーで突起、汚れ等を削ぎ取ってください。**  
 ※経年コンクリート、新設コンクリートにかかわらず、汚れや白華等の粉体が付着している面に補強テープやシールテープを貼付しても十分な粘着力は発現されませんので、清掃してから貼付してください。
- **必要に応じて専用プライマー塗布を実施してください。**  
 ※せこたん™専用プライマーCSP-5000は、水系非硬化型のプライマーで、コンクリート素地専用です。躯体表面が塗装、撥水処理等されている場合は使用できません。  
 ※また、コンクリート素地であっても、微細な隙間の多い表面では、塗布しても吸い込まれて表面に留まらず、改善効果が出ない場合があります。事前に目立たない箇所でも効果を確認の上、使用してください。  
 ※躯体についた塗り跡は、補強テープ、シールテープをはく離した後に水拭きすれば、基本的に除去可能ですが、事前に目立たない箇所でも確認の上、使用してください。

### ■ テープを貼付する際は、以下の点にご注意ください。

- 補強テープはシワが入らないように貼付してください。  
 ※シワ部分が補修材の流路になり、漏れの原因となります。
- シールテープは、ひびがテープ端から15mm以上内側に収まるよう貼付、補強テープやシールテープ上にシールテープを重ね貼りする際も、下貼りテープの端が、上貼りシールテープ端部から15mm以上内側に収まるよう貼付してください。



- ひび周辺や粗い部分、下貼りテープの境界で段差のある重ね貼り部分は、隙間が残らないようシールテープの上から硬質ヘラ等でしごくように強く圧着して下さい。



### ■ はく離後は必要に応じて後処理を行なってください。

- ※補強テープ、粘着剤、「ボンドスプレーのりZ-3」の残留は、ニチバンテープはがし強力タイプTH-K220を噴き付け、2~3分馴染ませ、スクレーパーで削ぎ取ってください。
- ※補強テープの残留については、躯体表面に対して出来るだけ浅い角度でゆっくりと引っ張って伸ばすことで撤去できる場合もあります。



- 注入器具及びエポキシ樹脂系補修材は、市販品をご使用ください。入手先が不明な場合は、裏面記載の弊社連絡先までお問合せください。

本品は使用方法・使用条件(表面状態や段差等)によって本来の性能を発揮できない可能性があります。事前に目的の用途に適合するか必ず確認の上、ご使用ください。

# 施工手順（シールテープ自動式低圧注入）

## 1 下地研磨

- ・スクレーパーで突起、汚れ等削ぎ取り。
- ・過度に粗い面はディスクサンダーで下地研磨。

注) 表面粗さRa=6μm以下はシールテープ単独、Ra=7~11μmは補強テープとシールテープ併用、Ra=12μm以上はディスクサンダーで下地研磨後、補強テープとシールテープ併用して使用。  
※表面粗さRaの目安：サンドペーパー#1000は6μm、#360は11μm程度。塗装型枠で打設した躯体は2~3μm。



## 2 削り粉清掃

注) ウェスやエアブラシで削り粉を除去

## プライマー塗布

- ・刷毛で原液をそのまま、塗れ色がつく程度に塗布。
- ・乾燥時間は、春~秋15分、冬30分程度確保。

注) 専用プライマーはコンクリート素地専用、事前に少量塗布し、不具合ないことを確認。  
※ 塗装面や撥水処理面では、弾いてプライマー効果が出ない、水拭きで塗り跡が除去できない可能性があります。  
※ 塗布液が奥に吸収されて表面に留まらない多孔状態の面では、プライマー効果が出ない可能性があります。  
注) 上記に該当する場合は、プライマー塗布なしで補強テープ、シールテープ貼付。



## 3 補強テープ貼付と印つけ

- ・片手で圧着しつつ逆の手で引っ張って方向調整、伸ばしながらひびに追従させて仮貼付、更にゴムローラーで強く圧着。
- ・穿孔した注入孔位置に油性ペンで印付け。

注) 補強テープにシワが入ると補修材漏れのきっかけとなり易い。  
※方向を調整する際、躯体表面に対して出来るだけ浅い角度で引っ張ることにより、シワが少なく補強テープを仮貼付できます。



## 4 シールテープ貼付

- ・布切れや軍手を丸めたもの等、滑りやすいもので背面を押さえながら滑らせ、補強テープの上に重ね貼りして仮貼付。
- ・硬質ヘラ等を使い強く圧着。

注) 一方から背面を押さえ滑らし、空気を抜きながらシワが入らないように仮貼付。  
注) ひび周辺や粗い部分、重ね貼り段差、補強テープ下貼り境界部分等は、硬質ヘラを立てた状態でしごくように強く圧着。  
注) さらにゴムローラーで強く圧着するとしっかり密着。



## 5 注入孔の穿孔

- ・注入座金を固定する位置(印をつけた穿孔箇所)で、カッターナイフ、ポンチ等を用い、シールテープ、補強テープをまとめて穿孔。



## 6 注入座金取り付けとシール補強

- ・速硬化型接着剤で注入座金を固定。

※速硬化型接着剤は、各取扱説明書の記載内容に従って使用してください。

注) シールテープ背面を研磨紙等で目粗しする、汚れをシンナー等で拭き取る、注入座金端部の上からも速硬化接着剤を塗布、被覆すること等で、注入座金の固定性が向上。  
注) 注入座金固定に使用の速硬化型接着剤の余りでシール補強。  
※段差が大きく、補強テープ、シールテープが追従しにくい部分は速硬化型接着剤等で補強してください。



## 7 補修材注入と充填状況確認

- ・低圧注入工法でエポキシ樹脂を注入。
- ・シールテープ背面から充填状況確認。

注) 空気溜りがあれば、空気溜り上のシールテープ、補強テープを穿孔、空気抜き後、シールテープを重ね貼りして封止。  
注) 補強テープ及びシールテープが膨らんだ場合、注入圧を下げる。



## 8 シールテープ、補強テープ除去

- ・シールテープと補強テープを一緒に除去可能。
- ・スクレーパーで削ぎ取りも可能。

注) 90°以下の浅い角度でゆっくり剥がす。  
注) シールテープ、補強テープは、貼付から4日以内にはく離・撤去。  
※高速で剥がしたり、4日を超えて貼付すると糊残りの可能性、深い角度で剥がすと基材切れの可能性あります。



## 9 後処理

- ・補強テープ、粘着剤の残留は、ニチバンテープはがし強力タイプTH-K220を吹き付け、2~3分馴染ませて、スクレーパーで削ぎ取り。
- ・貼り跡は、金属ブラシ、スクレーパーで削ぎ取り。



★市販スプレー「ボンドスプレーのりZ-3」を対象躯体にスプレー塗布、30分程度養生させることで、耐圧性向上、不陸調整となり、  
手順1のディスクサンダー研磨、手順2の専用プライマー塗布、手順3の補強テープ貼付を省略できる場合があります。事前に目立たない場所で効果を確認の上、ご使用ください。